



ロボット作りによる人材育成！三競技開催

第11回 ロボットグランプリ

3月8日(土)～9日(日)、日本科学未来館にて「第11回ロボットグランプリ」が開催された。ロボットグランプリは日本機械学会が1997年から主催しているロボットの競技会であり、工学と物作りを通して人材を育成することを目的としている。当日には「大道芸ロボット競技」「ロボットランサー競技」「ロボットスカベンジャー競技」という3つ競技が行われた。

まつばら たくや
松原 拓也 / (有) ニコ

大道芸ロボット競技会

人を楽しませるロボット競技

大道芸ロボットとは「人を楽しませること」を目的とした珍しいロボット競技である(テーマや発表方法は自由)。ビデオによる予選が事前に行われ、そこから選ばれた14チームが参加した。ロボットは手

作り感を残しながらも派手で大掛かりなものが多く、工夫と努力のあとがうかがえた。

コンピュータ制御部門の優勝は東京工業大学・ポアロ制作委員会による「ポアロ」。プロジェクターに映ったポアロがタップダンスを踊るというもので、映像だけのポア

ロが徐々に実物として現れる仕掛けになっていた。リアルとバーチャルが自然につながっていること、デモに失敗がなかったこと、誰もが楽しめることなどが高く評価された。同校では機械宇宙学科(3年生)の講義の中で大道芸ロボットを製作しているとのこと。

からくり部門の優勝は不二越工業高校の「からくりオンステージ」。2年連続の不二越工業高校による優勝である。作品はからくりによる人形劇で、動力には巻き取りバ



東京工業大学・チームしげお2:50による「ラーメンこじま軒 店主よしおさん」。11個のモーターが作り出す気持ち悪い動きが特徴。



静岡大学のサーフ・Gによる「ハマラ来襲」。手や口が動く怪獣ハマラを光線銃でやっつけるゲームだ。デンマークプレイ賞を受賞。



静岡大学のサーフ・Pによる「静大亭 太郎(しずだいていたろう)」。なんと紙切りをするという芸達者なロボット。技術賞を受賞。



東京工業大学・チームひろねの「告白ロボット」。プレゼントを渡したり、スプレーで愛の告白をするロボット。最後にフラれるオチあり。ドラマチック賞を受賞。



からくり部門優勝、不二越工業高校の「からくりオンステージ」。偽装をテーマにした人形劇だ。